

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

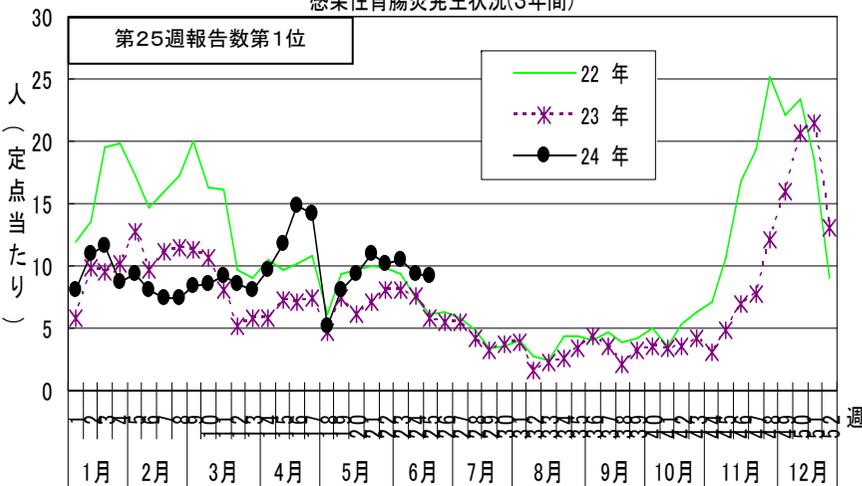


KAWASAKI CITY

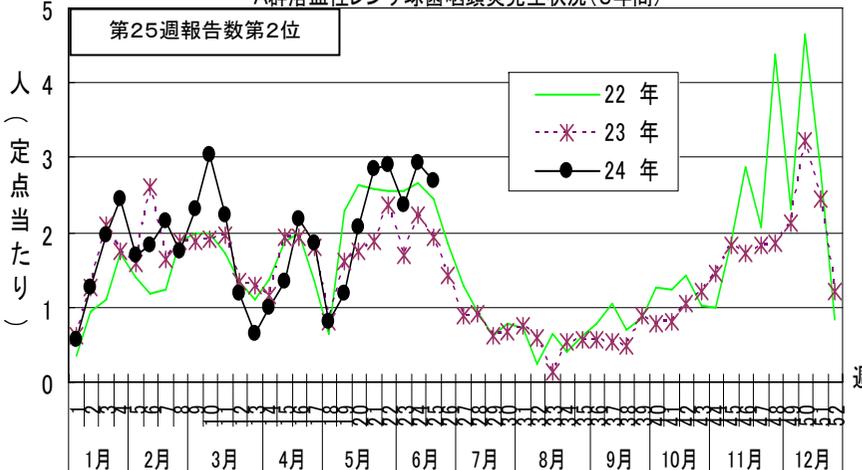
平成24年6月18日（月）～6月24日（日）〔平成24年第25週〕の感染症発生状況

第25週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり9.18人と前週（9.31）より患者報告数はわずかに減少していますが、例年を超える報告が続いており、平成11年のデータ収集開始以来、同時期において最も多い報告数となっています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.70人と前週（2.94）より患者報告数がやや減少していますが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 腸チフスの届出が1件（感染経路：不明、推定感染地域：インド）ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)

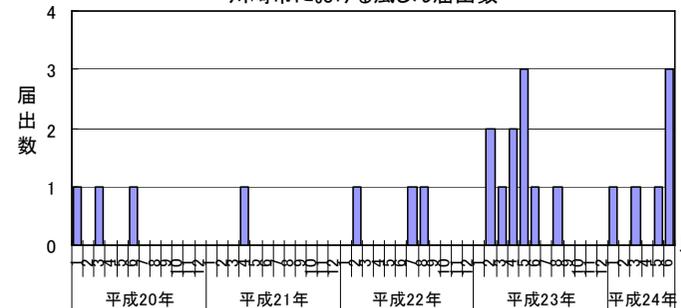


～川崎市でも流行開始？風しんに注意しましょう！～

今年は関西地方を中心に風しん患者の報告が続いていますが、6月以降、その報告数は急増しており、川崎市においても報告数が増加しています。
 風しんは「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあるため、妊娠の可能性のある方は特に注意してください。

風しんの潜伏期間は約2～3週間で、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどの症状が認められます。風しんに対する特異的治療法はありませんので、**予防接種を受けることが最も重要です。**

川崎市における風しん届出数



先天性風しん症候群とは・・・

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。**そのため、妊娠可能年齢までに予防接種を必ず受けましょう。**

平成24年 全国における風しん・麻疹届出数

